

税理士試験受験対策
合格のヒケツボ
【会計編】

Since 2005/12/01~

S A M P L E

★★★★★
法人の勉強部屋

<http://www.houjinzei.com/>

■簿記論 [山梨県]

私が簿記論に合格できたのは、基礎問題だけと言っても良いくらい徹底してしました。

応用問題はほとんど勉強しなくて、基礎問題を何度も何度も問題を解いたりして、勉強しました。

やっぱりどの科目でも基礎が一番大事、応用問題は、受験生の半分以上が解ける問題が解ければ良くて、それ以外の問題は勉強しなくても合格は出来ると思います。

■簿記論 [神奈川県]

①基本項目を重点に、テキストを何回も読んで仕訳を理解した。

②問題の解く手順をパターン化した。

③問題を解くときは、常に平常心で解くようにした。

■財務諸表論 [東京都]

専門学校に通っているのだから、とにかく学校を信じて、講師の先生を信じて、宿題課題は欠かさずに必死についていくこと。モチベーションをなんとか最後まで落とさずに戦い続けること。本番当日、平常心で最後まであきらめずに全力を出し切る。講師の先生からも、経験者の皆さんのいつも言われている事が、すべて真実だと思います。

■簿記論 [兵庫県]

H20…A判定 H21…受験せず H22…合格でした。

H22は相続税法をメインに勉強していたので、H20の方が簿記論の実力は高かったと思います。

今回は試験中に完全に思考停止になり、また来年かと思いながらとりあえず、空白を埋めた位なので、試験後は良くてB判定かとあきらめていたのですが…

簿記論は運の要素が強いという事を良く聞いていたのですが、実感しました。

ですから合格の秘訣は「とりあえず受けてみる」です。一応H22の勉強内容を書きます。

大原のH21の個別問題集と応用問題集。(4月～6月末)

大原のH22総まとめ問題集と実判～直前(6月～7月末)

以上を一度だけ解きました。H22は資料コースです。

■財務諸表論 [兵庫県]

やはり、理論暗記には苦労しました。

なるべく早い時期から暗記を始め、ちょっとでも覚える努力をしました。

直前の2週間は、特に予備校の出題予想の論点について、会計法規集を読み込み、何が出てても答えられるくらいにしました。

計算については、難しいと思ったところは追わず、確実に得点できるところに絞りました。

また、時間のマネジメントもうまく出来たと思います。

■簿記論 [静岡県]

基本問題を反射的に解けるようになるまでやり、穴を作らなかったこと、難問を冷静に処理できたこと(後回し、部分点)、そしてなんといっても取りこぼしなかったことだと思います。

■財務諸表論 [東京都]

●工夫したこと

<1>計算

財表は計算で合否が決まると言われていたので、計算に力を入れる方向で勉強しました。具体的には次の通りです。

- ・年内は個別問題を5回転、特に財表固有のところについては重点的に。
- ・年明けから直前期までは上級演習(総合問題)とその復習
- ・直前期は難易度が高くない基礎・的中答練の復習と上級演習をひたすら回

す。
※個別問題は上級演習が開始してから直前期まで上級テキストを2回転程度したのみ。
※直前期テキストは理論・計算共に使用していません。
※注記は総合問題の中で出てきたものをしっかり覚えれば問題ありませんでした。
→結果として上級演習のような基礎力を強化するものが一番効果的でした。本試験では計算は取管費以外は全部正解です。
＜2＞理論
財表の理論は暗記より理解とありますが、まさにその通りだと思います。ただ、結果として暗記したほうがアウトプットを出すという観点からは最終的には計算に当てる時間が増えるため点が効率的に伸びやすかったです。また、仕事が多く時間が限られているため理論は基本的に電車です。そのため持ち運びに便利なシステムカードを使用しましたが、内容を充実するためにシステムカードに色々挟み込み、オリジナルのテキストを作り上げていくことにしました。具体的には次のように取り組みました。
・伝統会計についてはフロー図の形にして、重要な単語を押さえ、流れを自分の口で説明できるようにした。
・新基準については上級の理論テキストをコピーしたものを挟み込み、ポイントは暗記、その他の部分も暗記した。(特に結論の背景は重点的に)
※暗記する際には、ポイントとなる単語を用いて、自らの口でその項目について一通り簡単な説明が口頭で出来るようになることを目標としました。
・新基準についてはASBJのHPで基準が無料公開されたこともあり、重要な理論については基準を読み、一通り結論の背景を結論までの流れを重視して押さえた。
これについては、講義後に講師の方に話し、自分の理解を確認していただいた。(特に棚卸・減損・工事・自己株)
・直前期に理論を勉強する際は、白紙を用意し、理論の流れに沿ってアウトプットするようにした。その際、単語には注意したが細かい一字一句までは見ないことにした。
→理論は見たことのない問題とテキスト外からの出題だと分かったため、最低限かけるところを書いて終えました。
＜3＞その他
・試験当日、簿記が出来なかったときに切り替えができるよう、頭の中で反復して試験当日の午後をイメージして心の準備をしました。
→総合すると、確実ライン+20点位だったと思います。

■財務諸表論 [神奈川県]

初試験の1時間目の簿記論で冷静さを失い失敗したので直ぐ反省し冷静さを保つよう努力。
素読みをし取れる所を確実に取れたからゴウカクしたと思う。

■簿記論 [富山県]

4度目の挑戦でしたが、やっと合格できました！
今回は、受験予備校を変え、基礎項目を徹底的に理解するよう心がけました。
応用項目や直前試験対策は生半可なものでしたが、やはり何が何でも合格したいという強い思いが通じたのだと思います。この調子で税法科目も頑張っていきたいです。

■財務諸表論 [富山県]

簿記論と同じく4度目の挑戦でしたが、やっと合格できました！簿財を両方同時に学習していて本当によかったです。
今回は、受験予備校を変え、基礎項目を徹底的に理解するよう心がけました。中でも、会計基準に関する出題が最近されているので、基準だけでなくその背景のことも理解を深めるために読んでいました。
応用項目や直前試験対策は生半可なものでしたが、やはり何が何でも合格したいという強い思いが通じたのだと思います。また、本試験で落ち着いて解くことができたことと計算問題でケアレミスがなかったことも合格の要因だと思います。この調子で税法科目も頑張っていきたいです。

■財務諸表論 [愛知県]

まず理論は基準の読み込みと授業での理解に努めました。授業中にテキストに書かれていないところの説明があったらテキストにメモを取っていました。あと理論は言葉ばかりだと覚えにくかったりもしたので図やフローチャートにしてまとめていました。

計算は、とにかく徹底的に総合問題を解きました。その際、ただ解くだけでなく、時間短縮するための方法を考え実践していました。あとはやっぱり基本的な項目をどんな形式で問われても確実に解答できるよう繰り返し問題演習することが大事だと思います。

■財務諸表論 [京都府]

RIN先生、お蔭様で財表をゲットし、会計科目を卒業できました。

まず理論は暇があれば穴を作らないようにテキストを眺めていましたが、試験では予想外のところが出ました。しかし、学者試験委員と知識を競う必要はないので、自分の知識の範囲で同じ答えでもいいのでとにかく全て埋めるようにしました。

計算は急がずに手を付けたところは確実に点を取れるようにゆっくり解き、10分前ぐらいからは形を整えるように適当な数字でも使って全ての欄を埋めました。

最後に、専門学校の前期の「押さえ」は気にする必要はなく、それよりも基本的な問題を繰り返して確実に得点できる方が大事な試験のような気がしました。

■簿記論 [東京都]

試験中は何度も「あせるな」と頭の中でつぶやいていました。どこまで冷静でいられるか、いつもの自分をどのくらい出せるかが勝負の分かれ目だと思います。抽象的な表現はここまでとして、4月までは個別問題と総合問題は授業の復習と宿題として与えられたものを行っていました。4月以降の答練期は総合問題をとにかく解きました。解けなかった部分については、なぜこの答えになるのか、じっくり時間をかけて理解しました。そのうえで間違えた部分と単元の個別問題を解き、とにかく苦手分野をつぶしました。過去問・予想問題は3回解き、特にじっくり復習しました。仕事をしながら、はじめての子育てに苦勞しながら（子供を育てるのはこんなに大変なんですわ）、合格できたのは妻の協力、かわいい子供、熱心な先生のおかげだと思います。頑張ることができた環境を与えてくれたみなさんに感謝しています。まだ試験は続きますが、初心を忘れず、感謝の気持ちを忘れず、かつ貪欲に勉強していきます。

■簿記論 [東京都]

今回の合格の一番の秘訣は諦めなかったことだと思います。

何回も不合格が続き、去年に関しては、成績上位に位置していて不合格が信じられない位の状態だったため、今回は体調もすぐれずモチベーションも正直落ちていた状態でした。そんな理由もあり、本格的に勉強したのは本試験2カ月前を切っていた5月下旬でした。

担当の先生に相談してみると、基礎がしっかりしているので、今からやっても間に合うと励まされて、答練の途中からですが、ひと月ちょっとで何とか勘を取り戻しましたが、新規論点などはちょっと弱かったです。

本試験のときは、今までの積み重ねの基礎力を頼りに、得意分野が集まっていた第二問を多少時間をかけて解き、新規論点だった第一問はできるところだけをさらっと解いて、あとは第三問を取れるところは取りこぼさずしっかり解けたことだったと思います。

遅すぎる位のギリギリのスタートでしたが、最後まで諦めずに自分のできるところを固めていったこと。担当の先生を信じて頑張ってきたこと。出ないと思われているような基本論点でも得意分野であればしっかり固める。そのような点が私にとっての合格の秘訣だったと思います。

■簿記論 [新潟県]

RIN先生。こんにちは。

私は、簿記論を7回目の受験で、やっと合格できた、という非常に稀な人間です

その為、合格の秘訣になるのかな、と思いましたが、今合格して、感じたことを書きます。
今回は、専門学校で与えられた問題は、すべて解けるように、繰り返し出来るまで、練習しました。
そうすると、全てをやり尽くした、という気持ちになりますので、本番では、割と楽に受けることができました。
あとは、本番1か月前からは、本試験のことしか、考えませんでした。当日の服装、食べ物などは、どのようにしようか、など細かいことまでです。そのようにして、モチベーションを維持してきました。

■財務諸表論 [岐阜県]

財務諸表の理論ですが、学校のテキストを一通りは覚え、出題の可能性が高いといわれていた論点は、企業会計基準委員会のホームページから会計基準をダウンロードしてテキストに無い部分を確認しました。

■簿記論 [大阪府]

簿記論は、普段からあまり難しい問題は解かず、基礎項目のみ徹底して学習してよかったと思います。
結果、本試験ではA項目を間違えず、ビックリ箱はとばしていました。

■財務諸表論 [東京都]

合格の秘訣ですが、やはりこつこつ努力をするということだったと思います。
本試験は1年に立った一回ですし、人並み異常の努力がやはり報われるということです。
報われないような試験問題が出た時は、それは作問者に問題があるということだと思いました。

■簿記論 [福岡県]

合格した秘訣は、振り返るととにかくテキストを読み込んでいました。
問題で間違えたところは間違いノートを作成して、普段から時間ができるときに目を通すようにしていました。
不明箇所はその都度解決するようにして、テキストに書き込みをしていました。
簿記論にいたっては専門学校の講師から、計算用紙をきれいに使えるようになりなさいという指導を受けていましたので、問題を解く際に特にその点を注意して解いていました。

■簿記論 [千葉県]

直前期において、曖昧な論点があった場合、基本に戻り、論点の問題集を集中的に解いた

■財務諸表論 [岐阜県]

合格の秘訣は、総合問題を何題もこなしたことで計算に自信がつき、直前期に理論を集中して覚えることができたことだと思います。

■財務諸表論 [兵庫県]

理論は、差別化だと思います。
なるべく早い時期から理論暗記を始めたのですが、やはりなかなか覚えられず苦労しました。何度も繰り返すことが重要だと感じました。
専門学校の出題予想をベースに、その2~3論点は
・雑誌の出題予想も参考にする
・法規集まで読み込む
ことを中心に、単語カードでキーワードチェックを行いました。
この出題予想が1論点だけでも当たるとすると、受験生が皆押さえる所なので、その中身を掘り下げ、差別化をすることを考えました。
その他の論点は、受験生も対応しきれないと考え、基本的項目を中心に、誰でも解答できると思われるところを押さえ、余裕があれば覚えるところを

プラスしていきました。

計算は、基本的な問題と注記を押さえることだと思います。

あまり難しい問題には時間を書けず、基本的な問題を確実に押さえて、積み上げていく一番重要だと思います。

普段の勉強も、基本項目を確実に処理できるような訓練を積むことが必要だと思います。

■財務諸表論 [東京都]

私がしたことは、毎回授業の復習時に単語帳に理論の重要部分を書き出し、会社への通勤時に確認することでした。

また計算に関しては、総合問題を解き、間違えた部分をノートに書き出していました。

■簿記論 [富山県]

基礎力を重視し、本試験会場で正しい仕訳を切れたこと。

■財務諸表論 [奈良県]

普段のミニテストや実力テストのためだけの勉強を、あまりしなかったことが、良かったのだと思います。

授業で学習した理論は、全て暗記し、何度も繰り返して定着させました。

これにより、9月から4月はそこそこの点数でしたが、出題範囲が広がる直前期になって、常にトップ集団に入るようになりました。

■財務諸表論 [富山県]

最近では会計基準が出題されているので会計基準の読み込みを徹底して行ったこと。計算項目を1問間違わずに集計できたこと。

■財務諸表論 [東京都]

科目の合格の秘訣は、

ズバリどんな問題が出て、他の受験生に負けないようにすることです。

長年なかなか合格できず、どうすればいいか悩んだあげく、大手専門学校のOとTの直前答練を申し込んで、問題を解きまくりました。

学校では、講師の方は、「OとTは相互に論点を押さえているので、専門学校のカリキュラムに従って勉強していれば大丈夫です」と説明していましたが、実際に両方の学校の答練を解いてみると、力を入れている論点とそうでない論点をはっきりわかりわかりました。(受験した年はO校はCF計算書に特に力を入れていて、ホント出るんかいな?と思いながら解いていたのを覚えてます。)

計算は復習する答練と捨てる答練を取捨選択して、あとはひたすら解きなおしてました。

理論も、Tで学習していない論点をOの直前の答練で補えたのは良かったと思います。

実際、本試験もOの答練で出題されたストックオプションの論点(Tは規定の穴埋めと費用認識と負債計上の根拠くらいしかテキストになかったと思います。)も回答できたので、多分大丈夫かな思っていました。

この勉強法は、正直万人向けではないし、必ずしも正しいとは言えないと思います。

週4日答練を受けて復習するのも、相当の時間がかかりますし、今振り返ると1科目にこれだけ労力をかけなくても、基本論点をミスせず回答できれば、合格点はとれたのかなとも思います。

ただ、長年合格できず追い詰められて、これでダメだったらあきらめる覚悟だったから、こなせたのかなとも思いました。

■簿記論 [熊本県]

私の簿記論の合格の秘訣は、とにかく問題を繰り返し解いたことです。トレーニング、ミニテスト、実力テストを何度も何度も繰り返し解き続けました。それでもどうしても解けない問題もありました。そして、何度も問題を解き続けた結果、その難しい問題を捨てることができるようになりました。

本試験当日も朝から総合問題を1問解いて、「よーし、OK!」と気持ち